

わが国における 観光統計の現状と課題

清水 哲夫(首都大学東京)

鎌田 裕美(一橋大学)

崔 善鏡(研究員)

栗原 剛(客員研究員)

2017年5月23日
第41回研究報告会

発表目次

1. 問題提起と研究内容
2. 観光統計の現状
3. 観光統計の課題
4. 研究の方向性

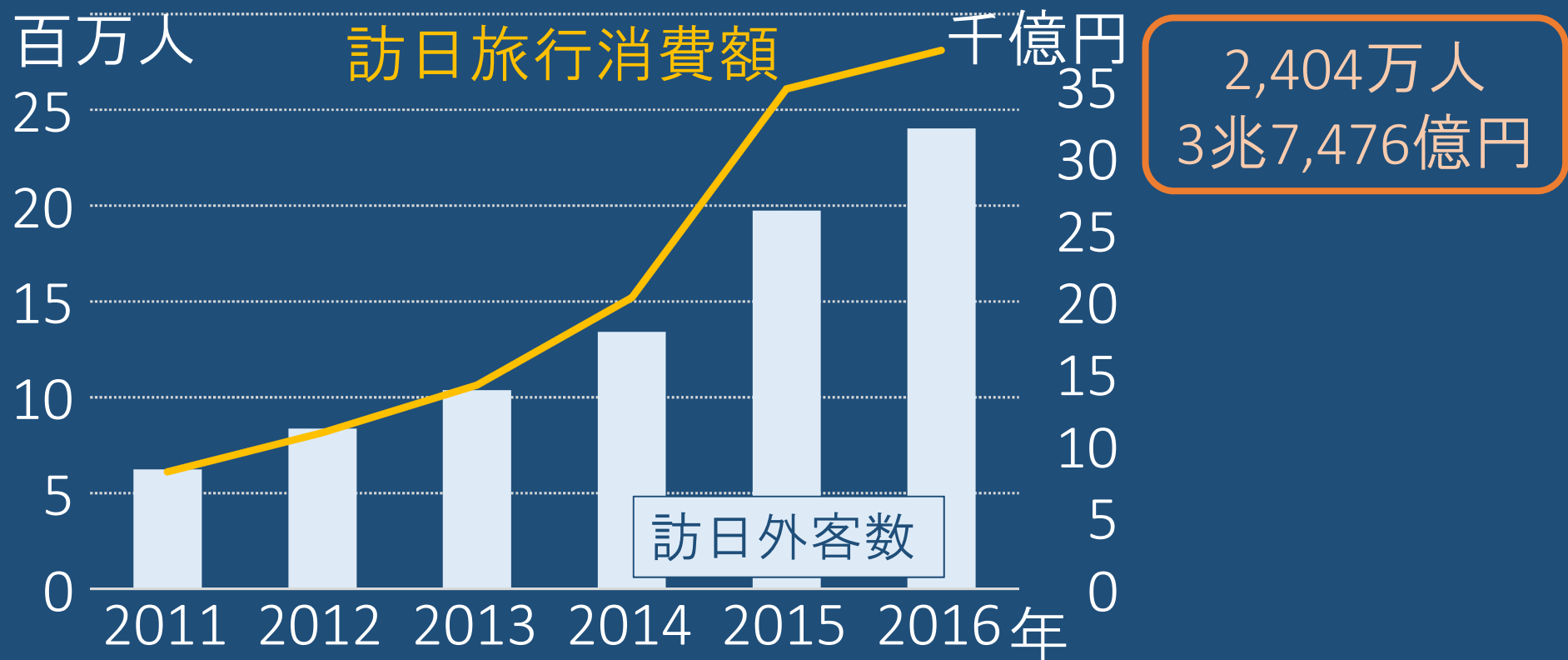
発表目次

1. 問題提起と研究内容
2. 観光統計の現状
3. 観光統計の課題
4. 研究の方向性

国の重要政策としての観光

観光は「地方創生」の切り札、
GDP600兆円に向けた成長戦略の柱

「明日の日本を支える観光ビジョン」



出典：観光立国推進基本計画(平成29年3月28日閣議決定),
平成28年版観光白書

観光関連統計の種類

分類	統計	
需要 (観光客の 動態)	訪日外国人消費動向調査 旅行・観光消費動向調査 航空旅客動態調査 観光入込客統計 宿泊旅行統計調査	JNTO国際会議統計 観光の実態と志向 全国幹線旅客純流動調査 JTBF旅行年報 じゃらん宿泊旅行調査
供給 (観光地の 経済・市場 環境)	訪日外国人消費動向調査 NITAS JTBF旅行年報 観光入込客統計	旅行・観光消費動向調査 数字でみる観光 じゃらん宿泊旅行調査 観光地域経済調査

※観光統計：観光庁が主体となり整備・公表する統計とする

政策を支える観光統計の整備

国土交通省(2005)

「我が国の観光統計の整備に関する調査報告書」

- 包括的な体系が構築されていない
- 基準が統一されていない(地域間比較ができない)
- 標本が小さい

- 
- 旅行・観光消費動向調査(2005年度～)
 - 宿泊旅行統計調査(2007年1月～)
 - 訪日外国人消費動向調査(2010年第2四半期～)
 - 共通基準による観光入込客統計(2010年第2四半期～)
 - 観光地域経済調査(2012年)

政策目標策定の根拠となる観光統計

・観光統計は観光政策を支える重要なインフラ

項目	目標	根拠
訪日外国人 旅行者数	4,000万人(2020) 6,000万人(2030)	JNTO訪日外客 統計
訪日外国人 旅行消費額	単価:20万円/人(2020) 25万円/人(2030)	訪日外国人 消費動向調査
地方部での外国人 延べ宿泊者数	7,000万人泊(2020) 1億3,000万人泊(2030)	宿泊旅行統計 調査
外国人 リピーター数	2,400万人(2020) 3,600万人(2030)	訪日外国人 消費動向調査
日本人国内 旅行消費額	21兆円(2020) 22兆円(2030)	旅行・観光消 費動向調査

資料:平成28年版観光白書

観光統計に対する一般的な評価

- 統計データが実態を表していない？
- 回答の負担が大きくなっていないか？
- アウトプットから読み取れることは何か？



「観光統計は使えない」のだろうか...

問題提起と研究ミッション

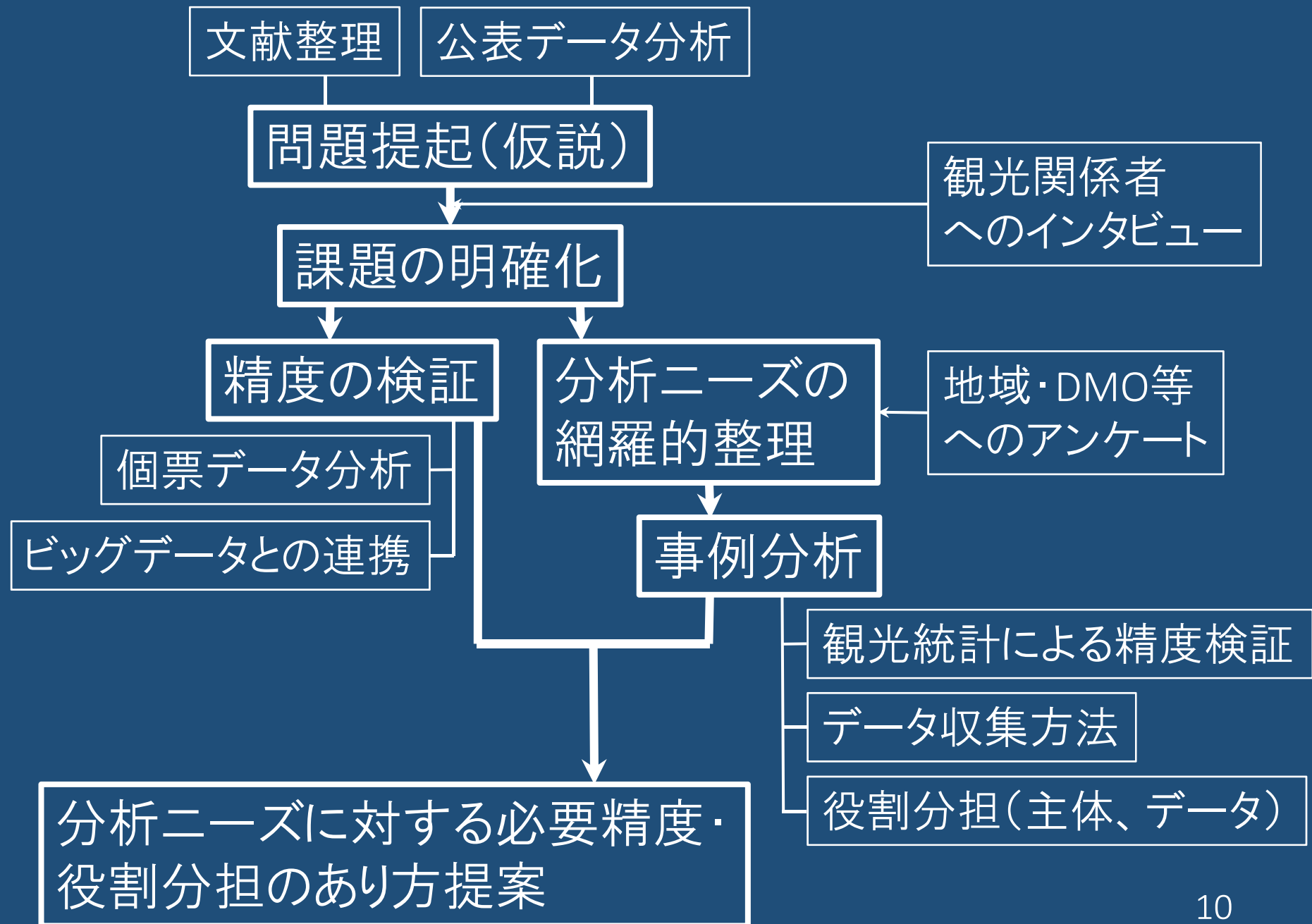
- 観光統計に期待しすぎ、任せすぎ
- 国、業界団体、都道府県、地域それぞれがデータ整備の役割を分担すべき

分析ニーズに対する必要精度・
役割分担のあり方を提案

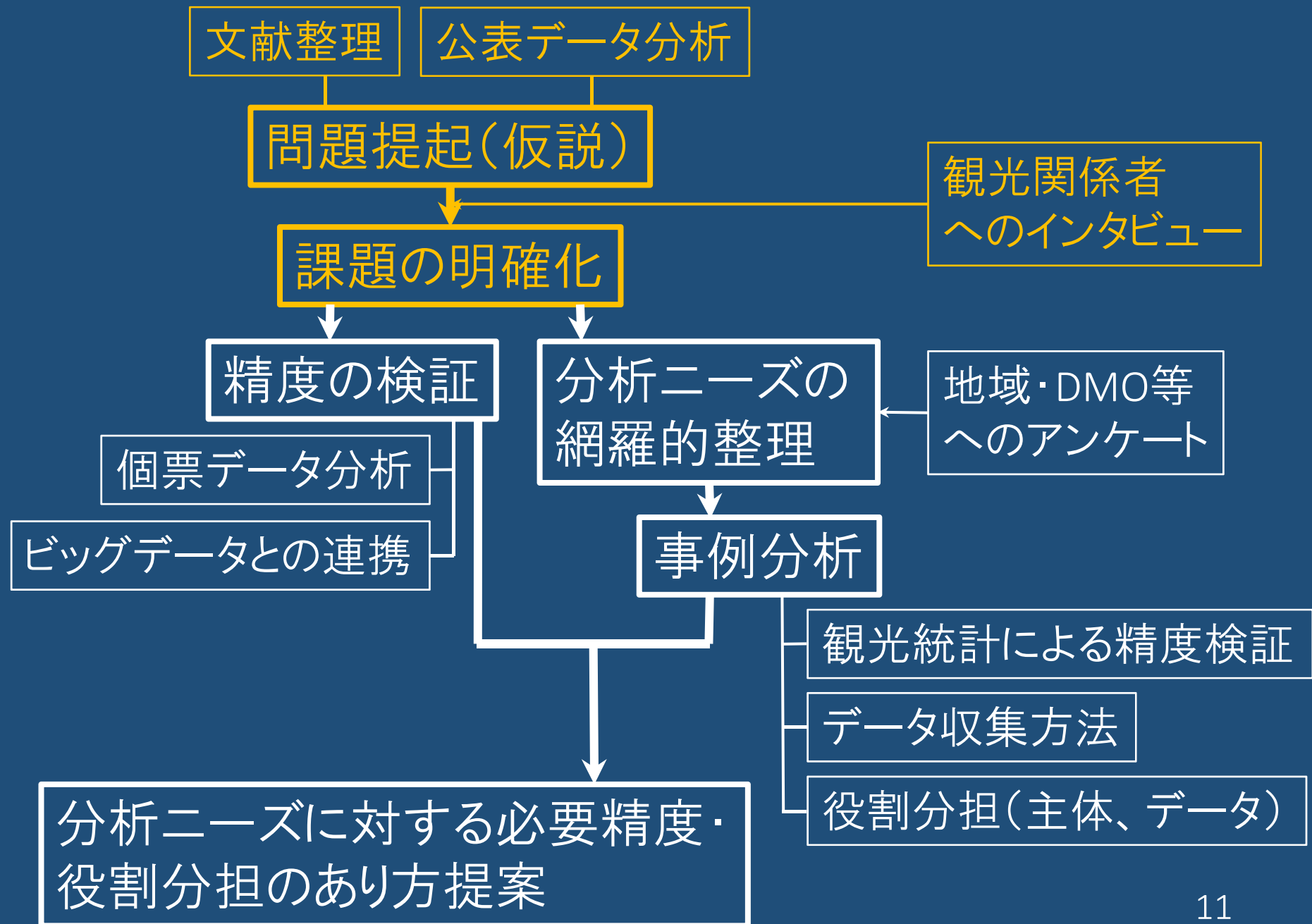
必要精度

役割分担

研究内容(研究期間:2017年2月～概ね2年間)



本日の報告範囲



発表目次

1. 問題提起と研究内容

2. 観光統計の現状

- 現状の観光統計データからわかること
 - 宿泊旅行統計調査
 - 訪日外国人消費動向調査

3. 観光統計の課題

4. 研究の方向性

宿泊旅行統計調査の概要

- 調査項目
 1. 各月の延べ・実宿泊者数(日本人・外国人)
 2. 日本人の居住地(県内・県外)、外国人の国籍
- 調査対象(50,119施設)
 - 従業員10名以上事業所:全数調査
 - 同5～9名の事業所(2010年第2四半期より追加):1/3の無作為抽出によるサンプル調査
 - 4名以下の事業所(2010年第2四半期より追加):1/9の無作為抽出によるサンプル調査
- 調査実施方法
 - 自計申告(郵送・オンライン;毎月)
 - 2017年5月31日に4月分の第1次速報(回収率30%強)、3月分の第2次速報(回収率50%強)が公表される

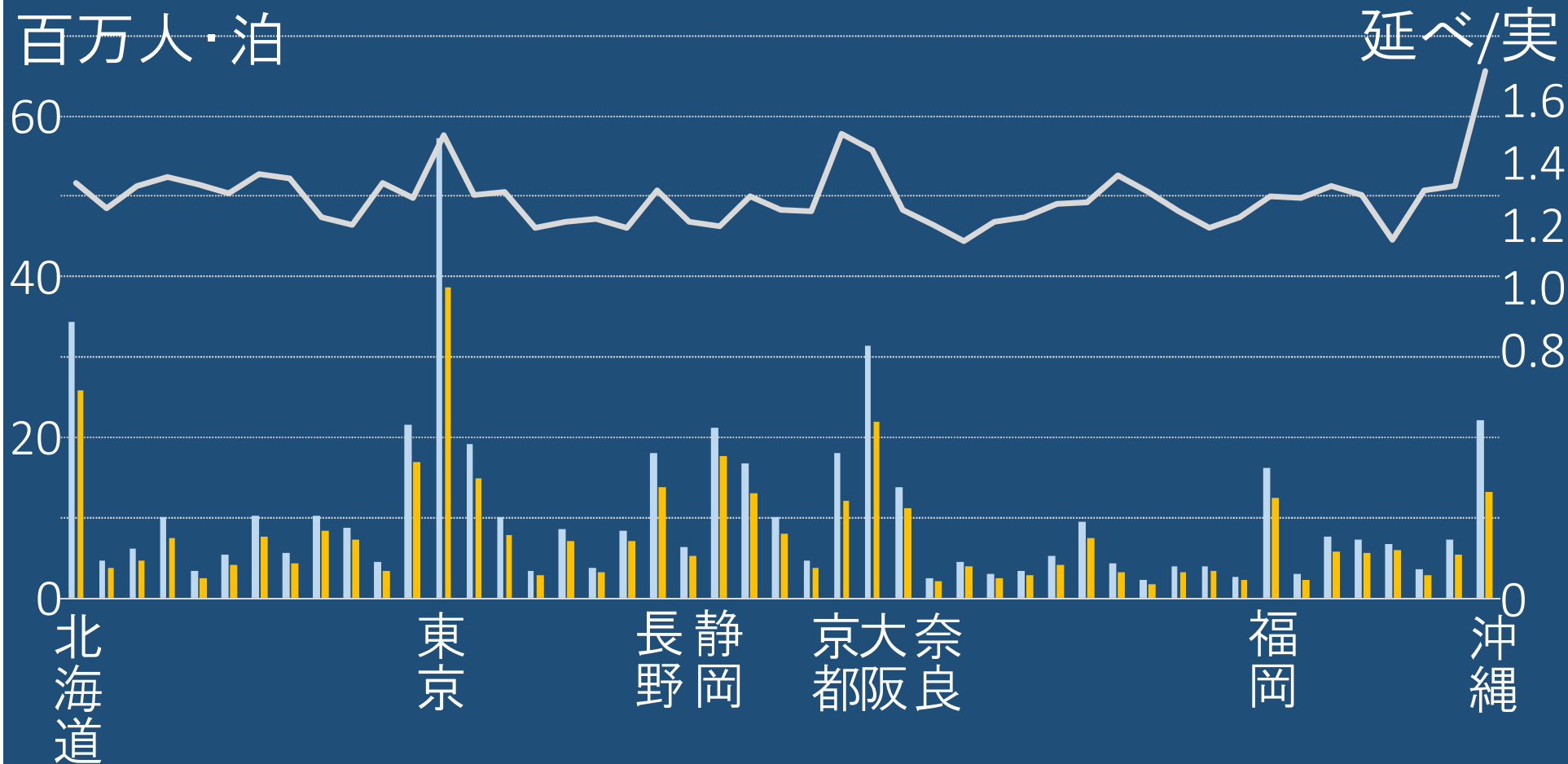
宿泊旅行統計調査でわかること

		時間			空間		
		年	四 半 期	月	全国	都道府 県	市区 町村
日本人宿泊者数(延べ・実)	総数	●	●	●	●	●	▲
	居住地別	●	●	●	●	●	×
外国人宿泊者数(延べ・実)	総数	●	●	●	●	●	▲
	国籍別	●	●	●	●	●	×
施設タイプ		●	●	●	●	●	▲
客室稼働率		●	●	●	●	●	▲

宿泊旅行統計調査でわかること

		時間			空間		
		年	四 半 期	月	全国	都道府 県	市区 町村
日本人宿泊者数(延べ・実)	総数	●	●	●	●	●	▲
	居住地別	●	●	●	●	●	×
外国人宿泊者数(延べ・実)	総数	●	●	●	●	●	▲
	国籍別	●	●	●	●	●	×
施設タイプ		●	●	●	●	●	▲
客室稼働率		●	●	●	●	●	▲

都道府県別延べ・実宿泊者数(2016)

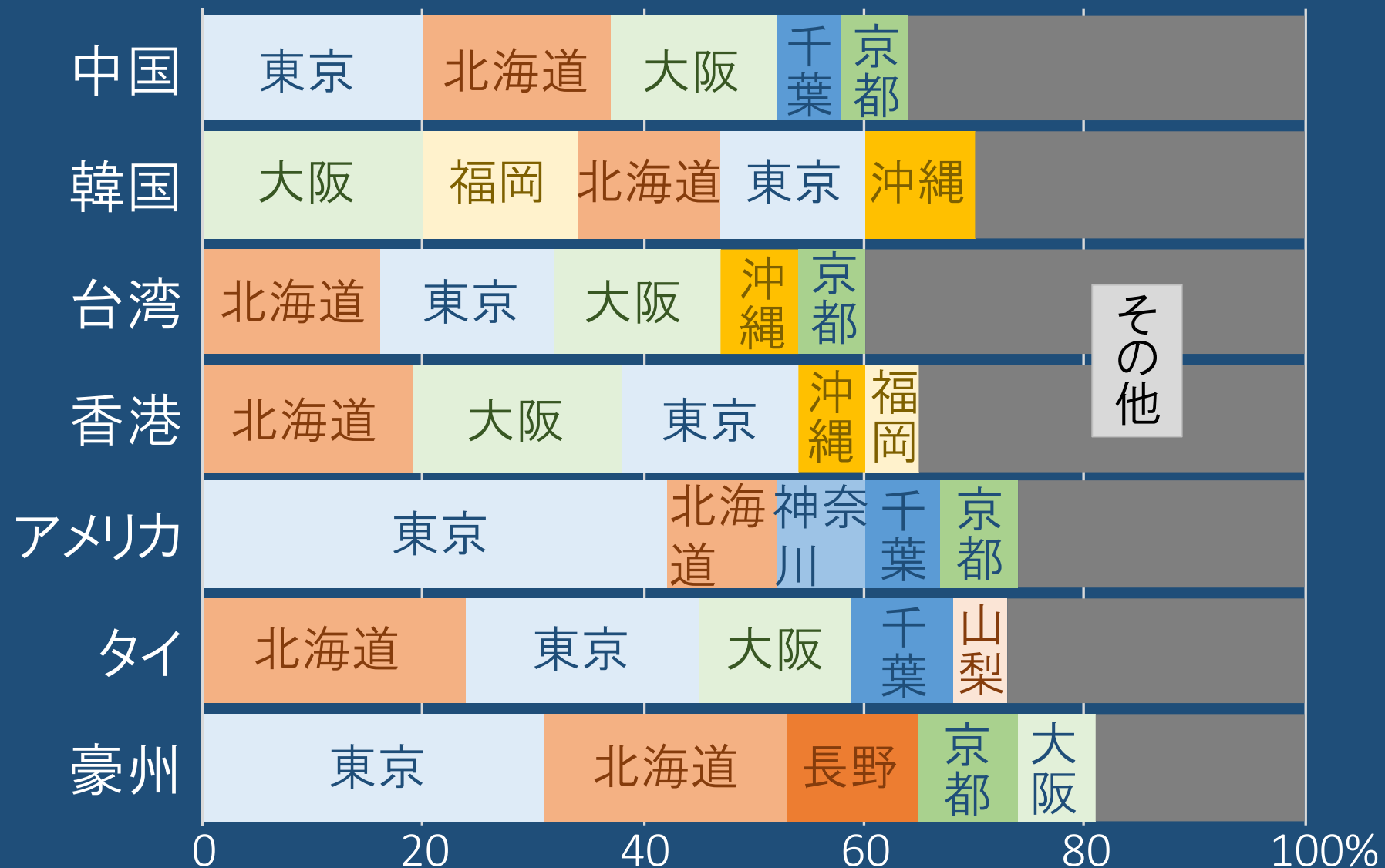


データ: 宿泊旅行統計, 平成28年1月~12月(第2次速報)

宿泊旅行統計調査でわかること

		時間			空間		
		年	四 半 期	月	全国	都道府 県	市区 町村
日本人宿泊者数(延べ・実)	総数	●	●	●	●	●	▲
	居住地別	●	●	●	●	●	×
外国人宿泊者数(延べ・実)	総数	●	●	●	●	●	▲
	国籍別	●	●	●	●	●	×
施設タイプ		●	●	●	●	●	▲
客室稼働率		●	●	●	●	●	▲

外国人宿泊の国籍別上位5都道府県(2017年2月)



データ: 宿泊旅行統計平成29年2月第2次速報

訪日外国人消費動向調査の概要

- 調査項目
 - 消費額、旅行者属性(国籍、性別、年齢など)、旅行行動属性(入国空港、訪日目的、訪問地等)
 - 訪日旅行に対する満足度等の意識
- 調査対象
 - トランジット、乗員、1年以上の滞在者等を除く日本を出国する訪日外国人客
- 調査実施方法
 - 全国18空海港で38,840人を抽出、調査員による聞き取り調査(四半期調査)

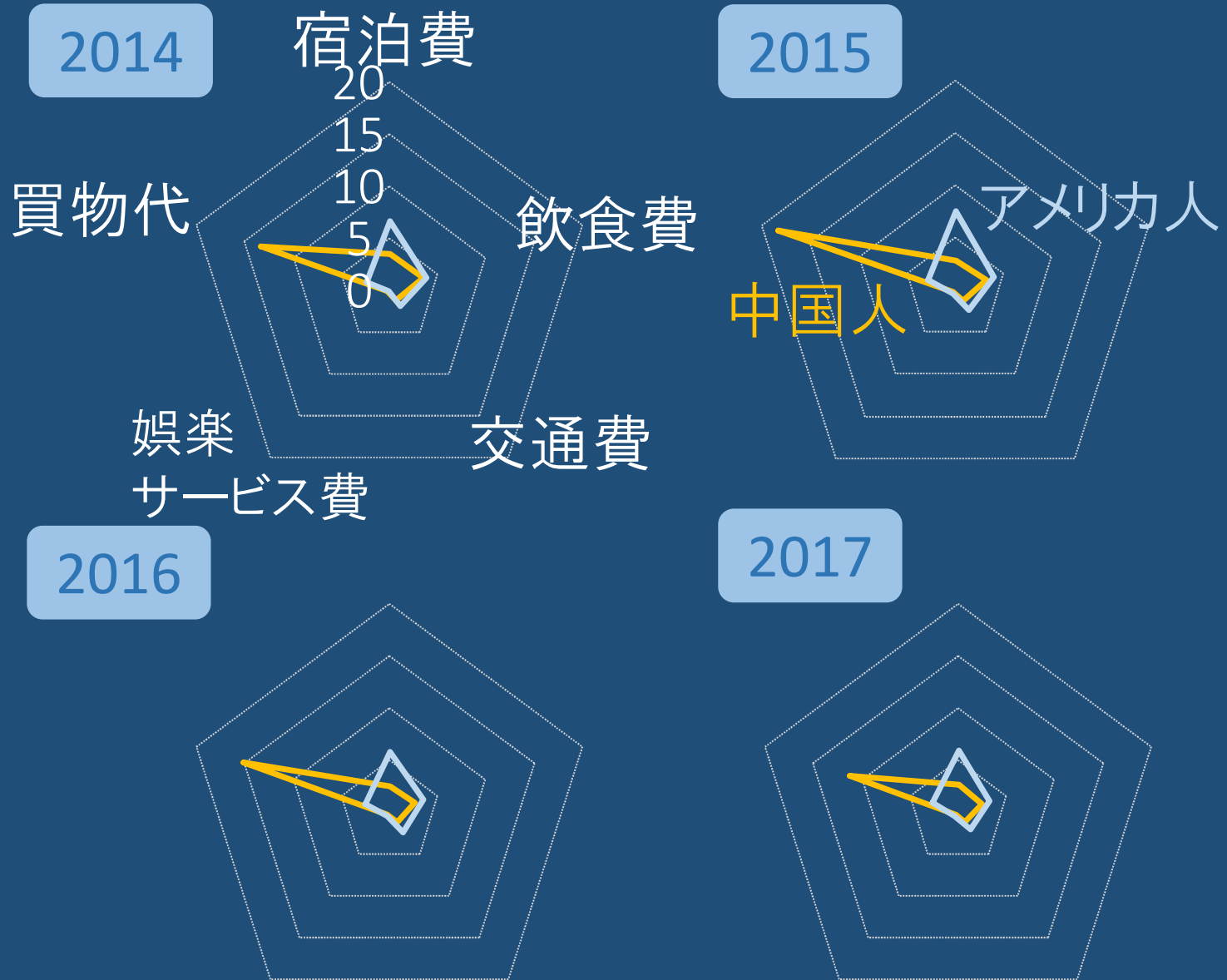
訪日外国人消費動向調査でわかること

		時間			空間		
		年	四半期	月	全国	都道府県	市区町村
旅行行動	消費額(費目別・訪問地別)、滞在期間、来訪回数、同行者、来訪目的、旅行手配方法、出入国港	●	●	×	●	▲	×
旅行者属性	性別、年代、国籍・居住地、年収	●	●	×	●	▲	×
旅行者意識	満足度、再訪意向、役に立った旅行情報、日本の旅行に期待していたこと・実際に体験した活動	●	●	×	●	▲	×

訪日外国人消費動向調査でわかること

		時間			空間		
		年	四半期	月	全国	都道府県	市区町村
旅行者行動	消費額(費目別・訪問地別)、滞在期間、来訪回数、同行者、来訪目的、旅行手配方法、出入国港	●	●	×	●	▲	×
旅行者属性	性別、年代、国籍・居住地、年収	●	●	×	●	▲	×
旅行者意識	満足度、再訪意向、役に立った旅行情報、日本の旅行に期待していたこと・実際に体験した活動	●	●	×	●	▲	×

国籍別消費単価の推移(第1四半期)

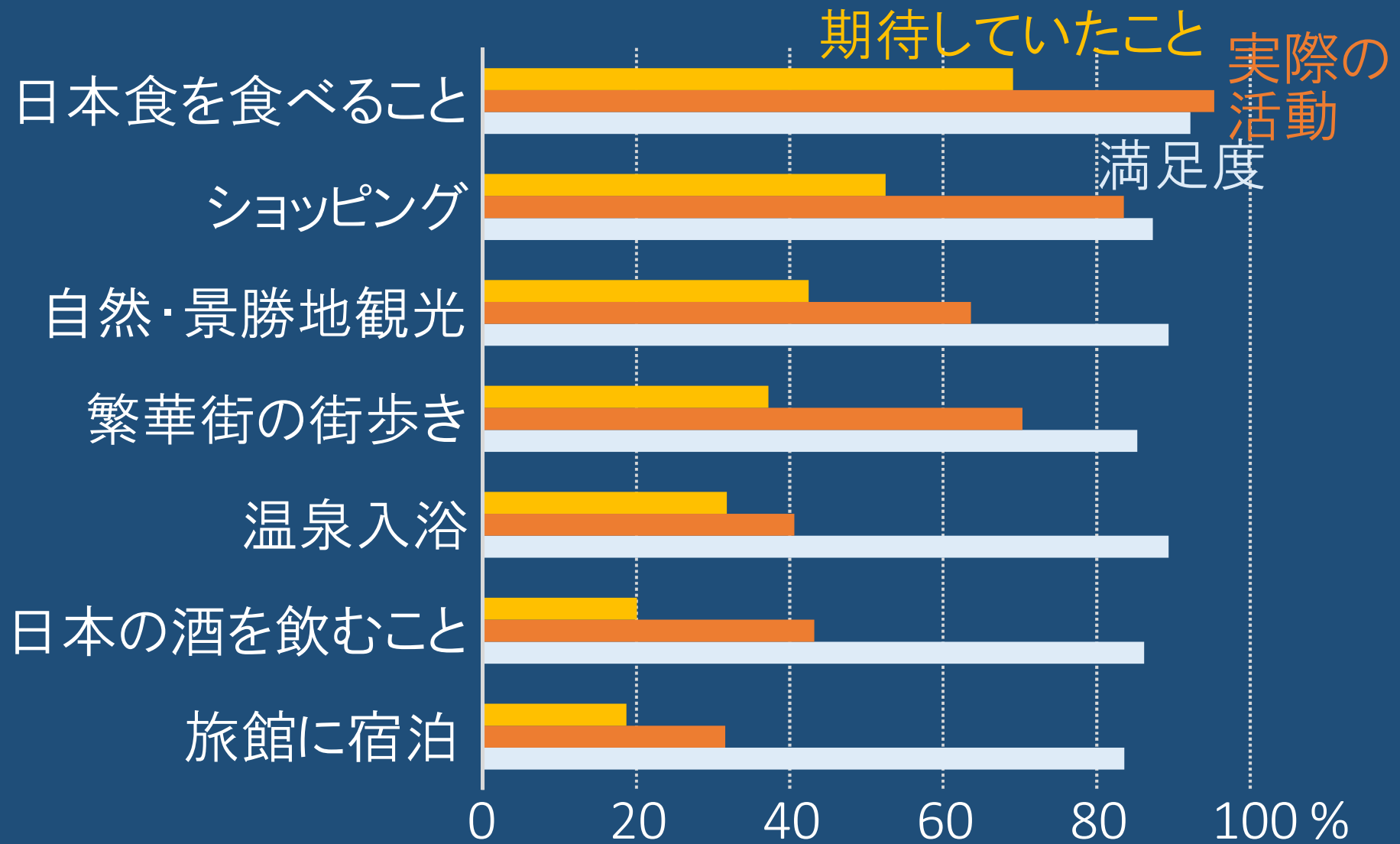


データ: 訪日外国人消費動向調査 22

訪日外国人消費動向調査でわかること

		時間			空間		
		年	四半期	月	全国	都道府県	市区町村
旅行行動	消費額(費目別・訪問地別)、滞在期間、来訪回数、同行者、来訪目的、旅行手配方法、出入国港	●	●	×	●	▲	×
旅行者属性	性別、年代、国籍・居住地、年収	●	●	×	●	▲	×
旅行者意識	満足度、再訪意向、役に立った旅行情報、日本の旅行に期待していたこと・実際に体験した活動	●	●	×	●	▲	×

訪日外国人消費動向調査でわかること



データ: 訪日外国人消費動向調査 24

発表目次

1. 問題提起と研究内容

2. 観光統計の現状

3. 観光統計の課題

- 観光関係者へのインタビュー調査
- 観光統計の課題の明確化
 - 「精度」の課題
 - 「役割分担」の課題
 - 「活用」の課題

4. 研究の方向性

インタビュー調査の必要性

- それでも「観光統計は使えない」との声が多い
 - なぜ使えないのか？
 - 観光統計に対する分析ニーズは何か？
 - 分析ニーズに対して現状の統計で評価可能か？
- 問題提起で示した「課題」の確からしさを検証

観光関係者へのインタビュー調査

統計の整備や利用の最前線に立っている人を対象

- (2005年以降の)観光統計の整備担当者
 - A氏、B氏
- データを活用した政策・施策提言に携わる総研系
 - C氏、D氏
- 観光業界の団体
 - E氏、F氏、G氏
- 自治体・地域観光団体
 - H氏、I氏、J氏

インタビュー質問項目

	整備 AB	総研 CD	業界 EFG	地域 HIJ
業務における観光統計の利用	-	○	○	△
観光統計に対しての諸問題（不満・課題・ニーズ等）	○	○	○	○
独自に活用しているデータの有無	-	○	○	○
観光統計の意義・役割に対する考え	○	○	○	○
学系組織に対する研究の要望	○	○	○	○
関わった観光統計業務の内容	○	-	-	△
統計整備の達成目標と達成度	○	-	-	-
ビッグデータ活用についての考え	○	-	-	-

インタビュー結果 統計の利用

	整備 AB	総研 CD	業界 EFG	地域 HIJ
業務における観光統計の利用	-	○	○	△

利用している

- 独自の統計データから観光動向を把握しながら、公的な統計もコントロール・トータルとして利用している(D氏)
- 日本全国、都道府県の空間スケールで観光動向を示す際にいつも利用している(C氏、G氏)

利用していない

- 見たことがない(I氏)
- マクロデータだけでは地域の観光政策を展開できない(J氏)

→マクロ動向の把握に利用されている

インタビュー結果 分析ニーズ

	整備 AB	総研 CD	業界 EFG	地域 HIJ
観光統計に対しての諸問題（不満・課題・ニーズ等）	○	○	○	○

- 観光入込客数や宿泊者数を知りたい（F氏）
- 人の動きを知りたい（E氏）
- 観光消費額を知りたい（D氏、H氏、I氏）
- 満足度や再訪意向を知りたい（意識）（J氏）

→それぞれのビジネスや業務の内容により多様な
ニーズがある

インタビュー結果 統計の不満・課題

	整備 AB	総研 CD	業界 EFG	地域 HIJ
観光統計に対しての諸問題（不満・課題・ニーズ等）	○	○	○	○

- 消費額のデータがどこまで正確か不安（G氏）
- データはあっても、読み取れる人が少ない（D氏）
- 地域DMO組織、市町村関係者はデータへの理解度が低い方が多い。公的な観光統計で分かる内容と、それでは不十分なデータをマーケティング調査等で補うという点の理解に乏しい（D氏）
- 統計は整備すれば良いと思っている人が多く、分析活用によって磨かれることで統計は存在意義を発揮して継続することを理解していない（A氏）

→データの信頼性に疑問を呈する一方、統計の活用に対する意義が理解されていない

インタビュー結果 統計の意義・役割

	整備 AB	総研 CD	業界 EFG	地域 HIJ
観光統計の意義・役割に対する考え	○	○	○	○

- 情報が氾濫する中で、信頼でき安心できること(G氏)
- 観光統計はベンチマークとしてブレずに示すべき(H氏)
- (変化の速い業界なので)インバウンド観光動向の変化および変化に対応する国や県の政策・施策を早く知らせること(I氏)
- 精度と速報性の双方を同時に求めるきらいがある。政府統計としての役割がはっきりしない(A氏)
- 国や都道府県レベルであれば、基本的な観光動向に関する仮説はある程度観光統計だけで検証できる(D氏)

→ 基幹データとしての役割は一定程度認識

⇔ 速報性と精度、多様な情報を観光統計に求めている

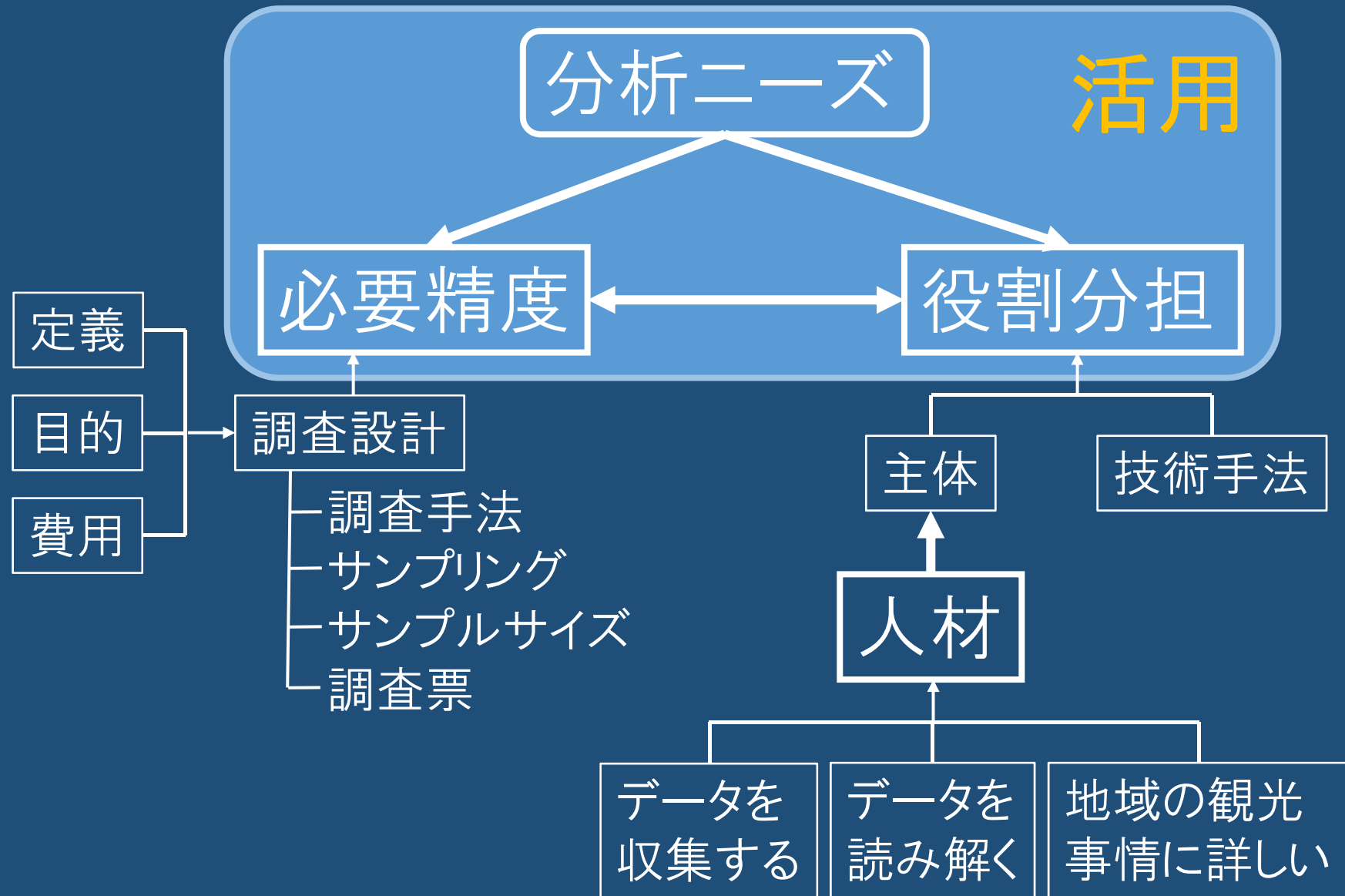
インタビュー結果 研究の要望

	整備 AB	総研 CD	業界 EFG	地域 HIJ
学系組織に対する研究の要望	○	○	○	○

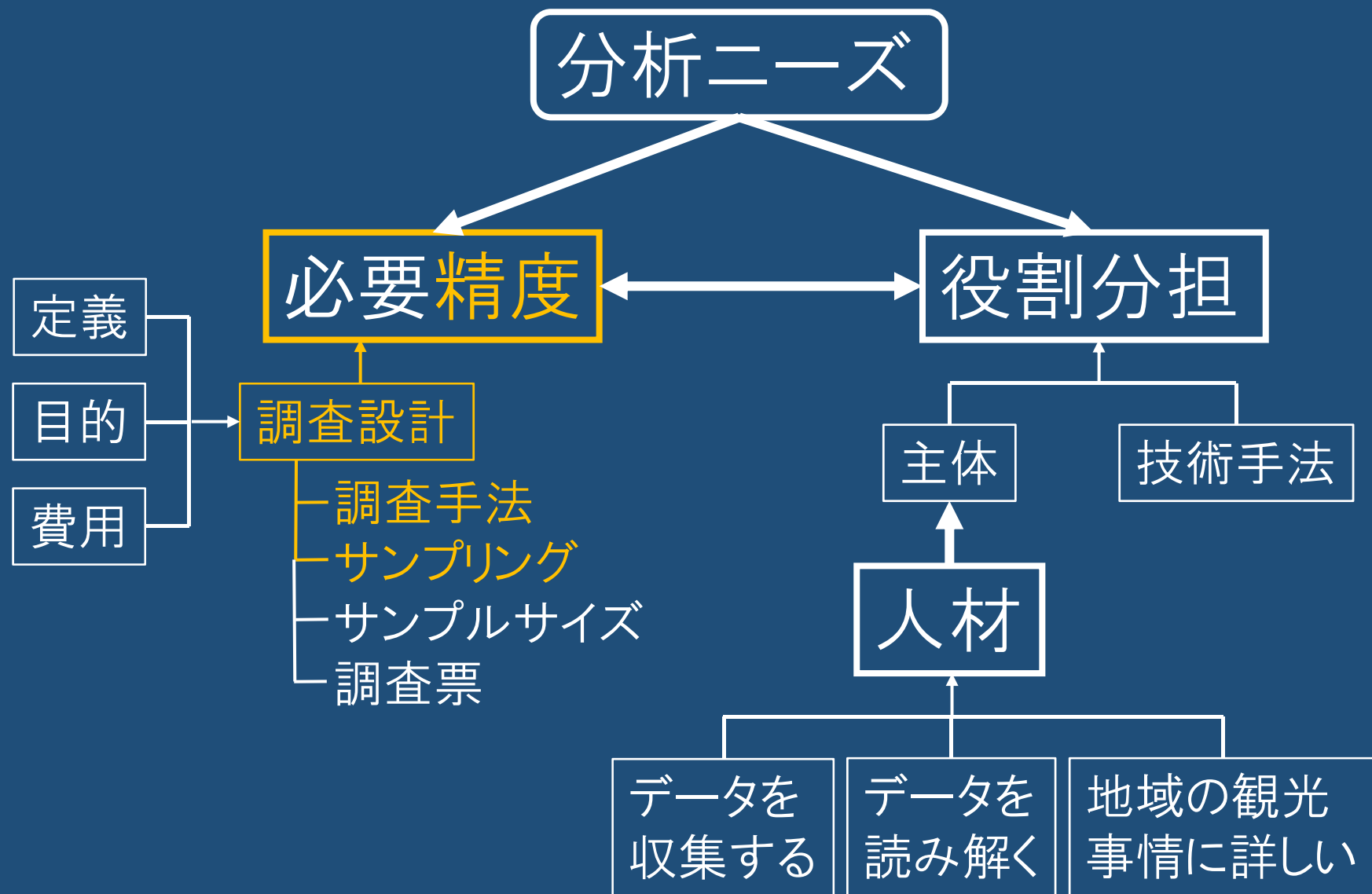
- 分析・活用を通じて既存の観光統計が持つ潜在力を引き出してほしい(A氏、H氏)
- 観光統計ができること、観光業界・自治体・個々の企業が収集・分析すべきデータなど、主体別の役割分担が明確になるような構造図を描き、提案してほしい(A氏)
- 既存の手法よりもビッグデータ利用の方が精度が高いという研究。分野によってビッグデータで代替すべきと考えており、その事例研究を重ねることが重要(B氏)

→役割分担(主体、データ)を踏まえて観光統計を活用できるものにしてほしい

観光統計の課題



精度の課題

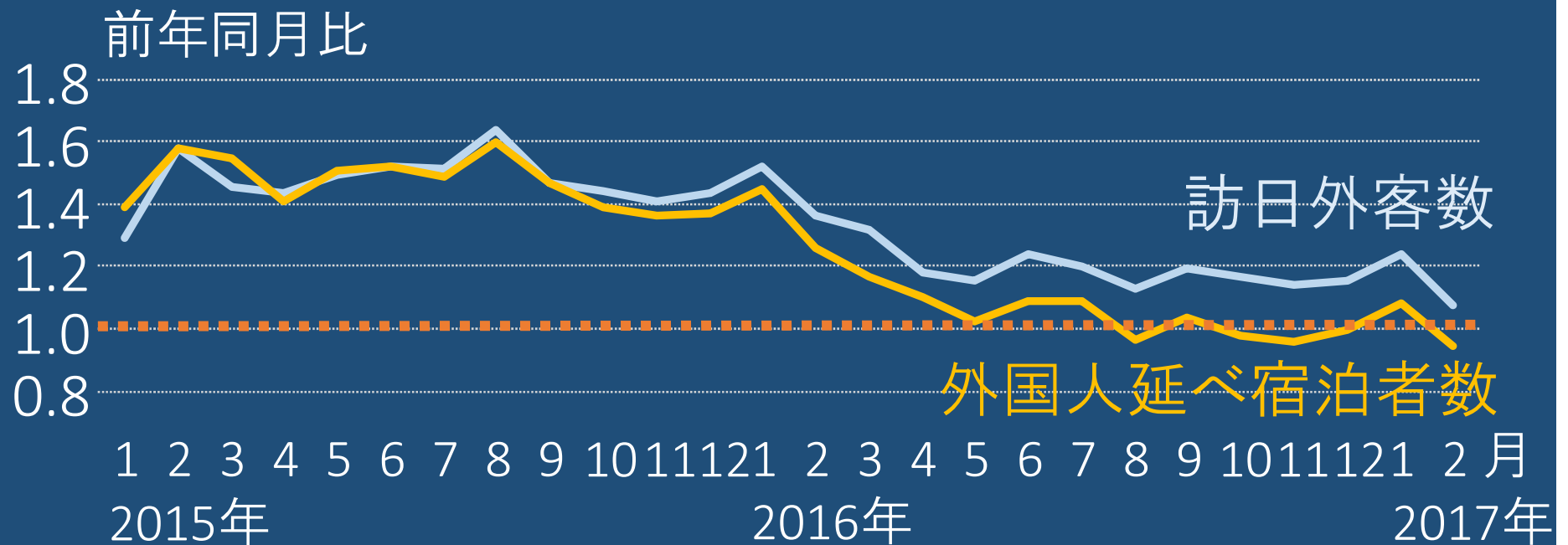


精度の課題

➤ 宿泊旅行統計調査

- 母集団の特定が困難（最近増加している民泊に対応できない?）
- 回収率は70%程度を維持しているが、回答施設が異なることがあり値が安定しない?

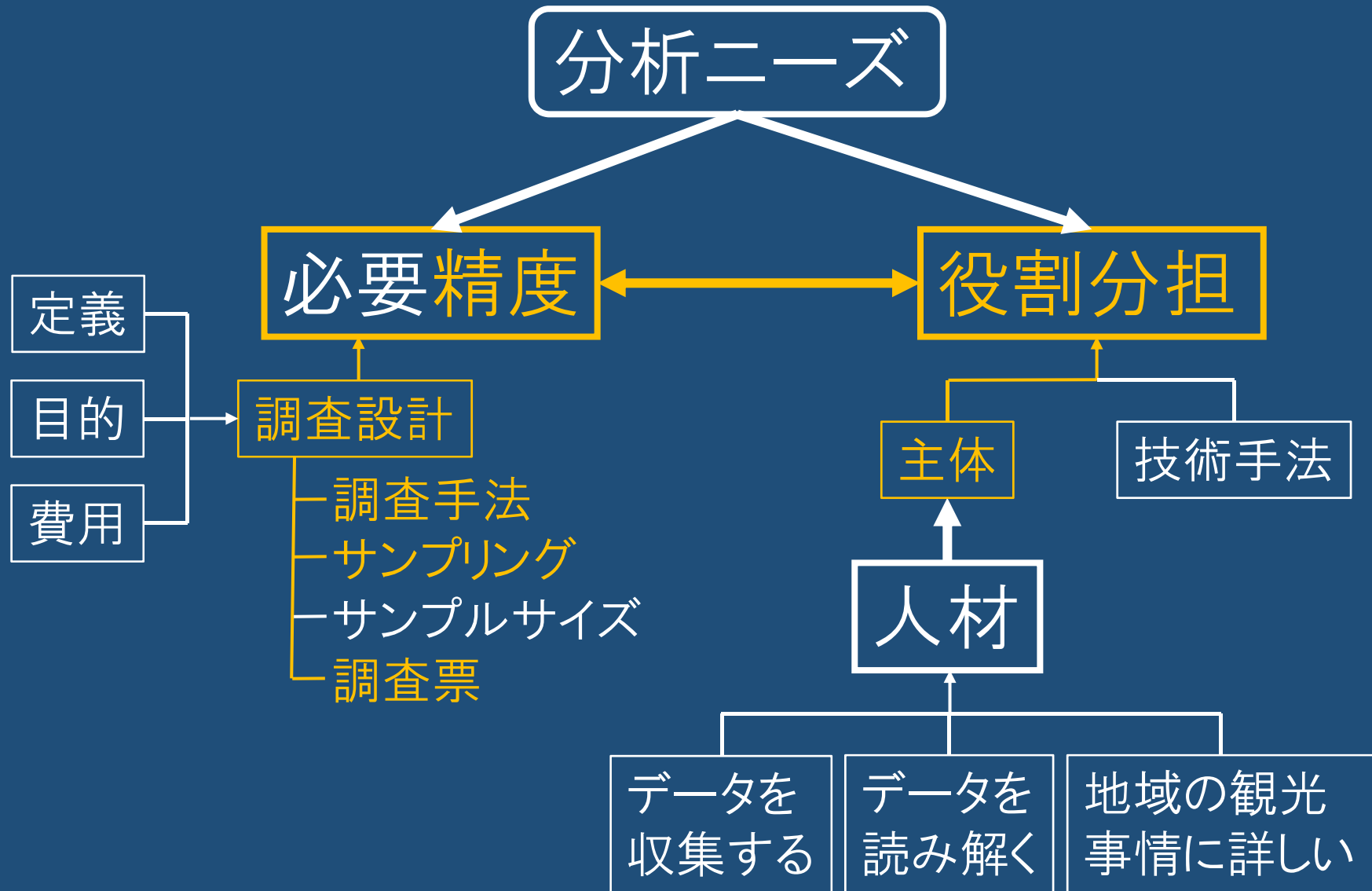
外客数と外国人宿泊数の傾向



データ 訪日外客数: 日本政府観光局(JNTO)訪日外客統計
外国人延べ宿泊者数: 宿泊旅行統計調査

- 訪日外客数と外国人宿泊者数の伸び率に開きがでてきた
- 民泊の増加に対応できていない?

役割分担の課題



役割分担の課題

➤訪日外国人消費動向調査

- どこまでが国の統計として取得すべきデータかの境界があいまいになっている
- 地域の観光政策立案に必要な細かい情報まで観光統計で取得しようとしている

例)訪れた都道府県別の観光消費額

→回答者に多大な負担をかけるだけでなく、回答の精度にも影響を与える

役割分担の課題

➤例)訪れた都道府県別の観光消費額

●E4. 日本滞在中の支出金額を訪問地毎にお答えください。(数字で記入)

注)以下の支出を除いてください。

- ・ツアー価格(D1)に含まれるもの
- ・帰国後に自国での販売目的で購入したもの
- ・新幹線や飛行機など訪問地間の移動にかかる交通費

●E4. 支出金額

何人分の金額を記入しますか。
(子ども含む)

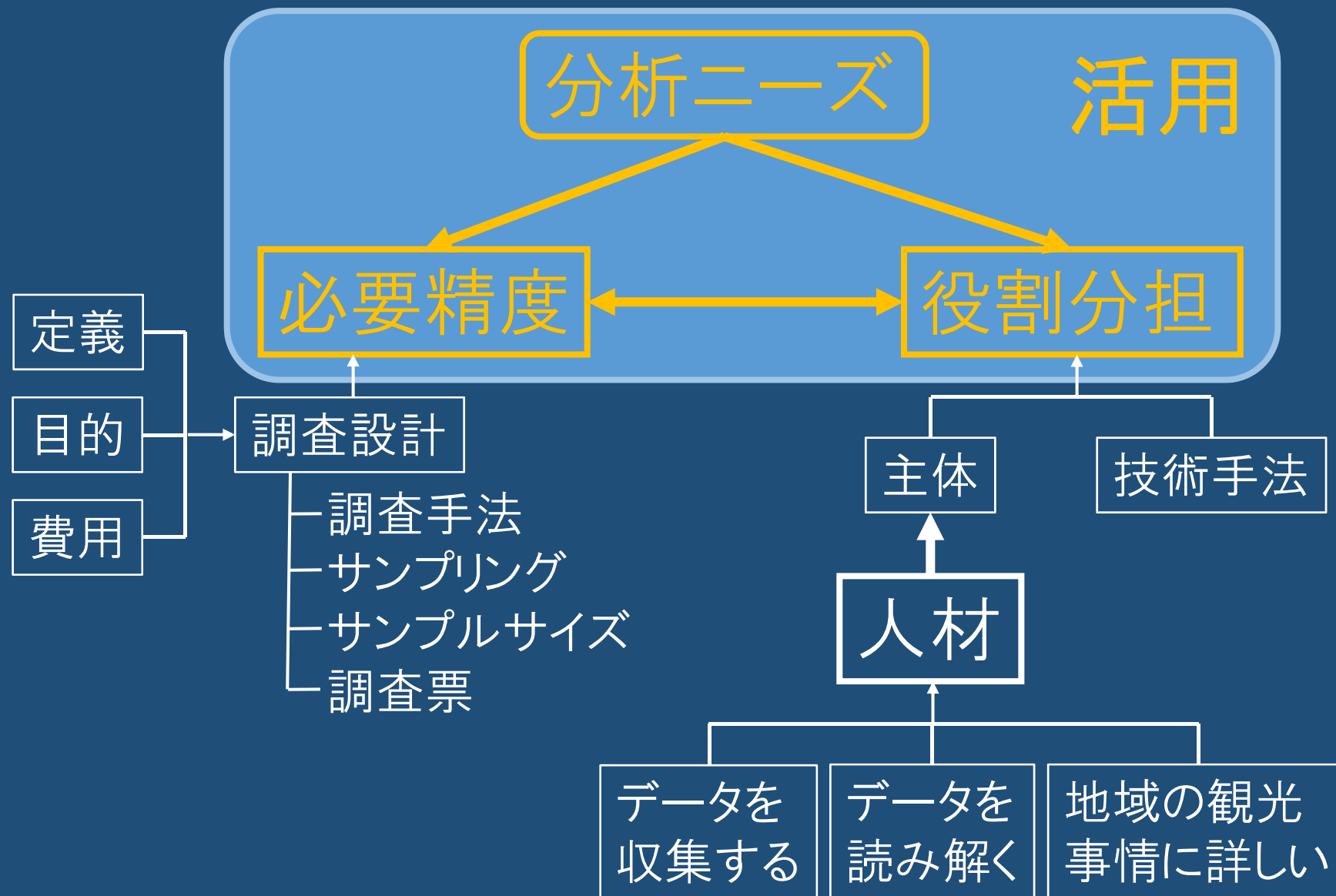
人分

通貨

	●E1. 訪問地名 (地名を記入)	●E2. 泊数 (日帰りは0)	●E3. 宿泊施設	
訪問地① (入国港)		泊		
訪問地②		泊		
訪問地③		泊		
訪問地④		泊		

出典:訪日
外国人消費
動向調査
調査票

活用の課題



活用の課題

➤分析ニーズ「地域の外国人観光消費が知りたい」

① 観光統計を用いた分析を検討

- 訪日外国人消費動向調査でどこまで分かるか？

② 不足分があればどのようなデータを誰が整備し、分析すべきか検討

所内研究テーマ「地方におけるインバウンド観光の実態と効果に関する研究」(2011-2014)より

消費単価推計に利用できる地域のサンプルサイズ

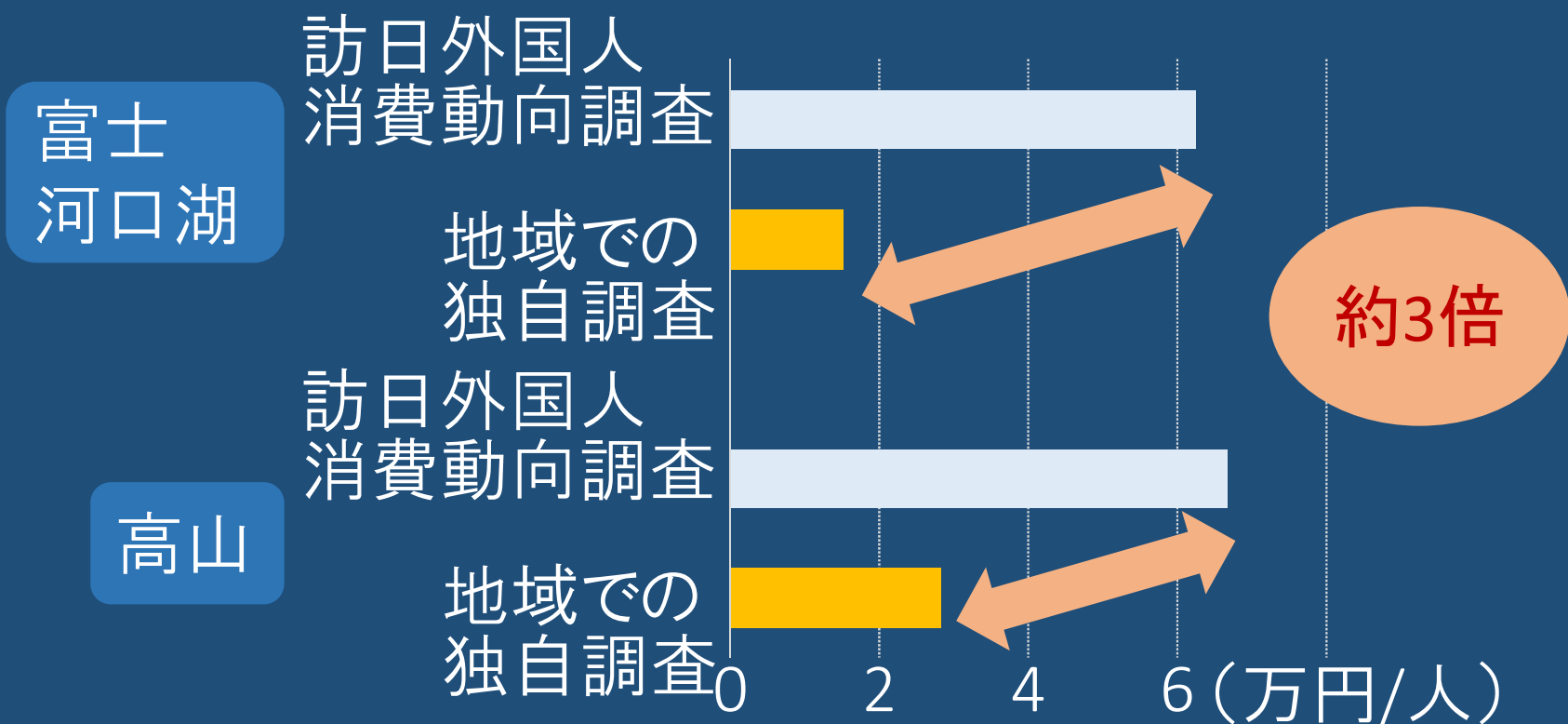
- 上位3都市だけで40%前後を占め、**標本数が100を超える地域はごく少数**

データ: 訪日外国人
消費動向調査

2010年データ		2012年データ	
n	14,108	n	25,541
東京	5,719	東京	3,877
大阪	1,643	大阪	3,211
京都	540	新宿	2,100
$n > 100$ の地域			
那覇	222	那覇	491
		別府	153
$n \leq 100$ の地域(上位)			
長野	54	二セコ	79
高山	48	阿蘇山	68
別府	45	白馬	64

観光統計と地域調査の比較(1)

- 地域での独自調査と比べて訪日外国人消費動向調査データの単価は約3倍
- 調査方法の違い: 訪問時or帰国直前



* 独自調査は2012年、2013年に実施。同時期の比較

観光統計と地域調査の比較(2)

調査名		n	消費単価 (円)(A)	標準偏差 (円)(B)	変動係数 (B)/(A)
訪日外国人 消費動向 調査*	2010年	13,862	79,501	163,914	2.06
	2011年	14,647	60,568	109,959	1.82
	2012年	25,219	56,087	119,822	2.14
地域での 独自調査 (宿泊のみ)	河口湖	82	15,145	9,229	0.61
	高山	167	29,640	22,812	0.77
	由布	45	26,027	19,889	0.76
	阿蘇	53	13,180	9,219	0.70
	指宿	43	20,477	20,926	1.02

*主な宿泊地の消費額を集計(泊数90日以上を除く)

- 地域での消費調査は変動係数が小さいため、消費単価そのものは100程度のサンプルサイズで誤差率20%を下回る

活用の課題

- 分析ニーズ「地域の外国人観光消費が知りたい」
- 訪日外国人消費動向調査を活用すると...
 - 限られた地域のみデータ取得可能
 - 地域の独自調査結果と比較して約3倍の消費単価



独自調査の必要な地域が多い

- 地域で独自調査を行うと消費のばらつきが小さいため、比較的少ないサンプルでも消費単価の推計は可能



分析ニーズに対する観光統計の精度を踏まえ、どのようなデータを誰がとり、分析するか検討すべき

発表目次

1. 問題提起と研究内容
2. 観光統計の現状
3. 観光統計の課題
4. 研究の方向性

問題提起(再掲)

- 観光統計に期待しすぎ、任せすぎ
- 国、業界団体、都道府県、地域それぞれがデータ整備の役割を分担すべき

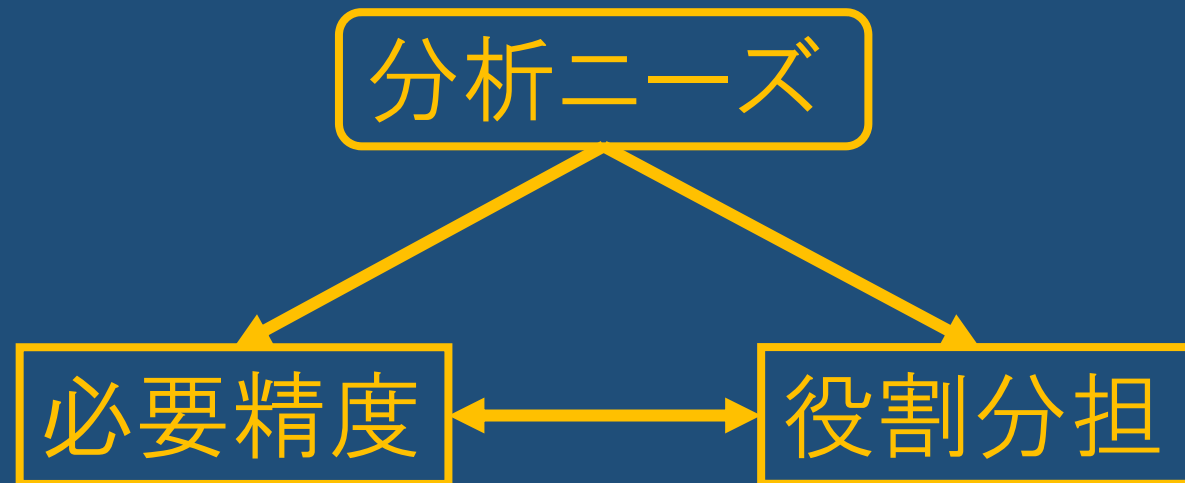


図 理想的な観光統計活用のイメージ

今後の研究課題

